

神の預言者たちの神聖な励ましを通して、
神の家の建造を回復する

聖書：エズラ 5:1-2．ハガイ 1:2-5，7-8，9 後半，14．2:6-7，9 前半，23．
ゼカリヤ 3:9．4:2-7，11-14

- I. 神の家としての回復された宮の再建において、ヨシュア(祭司職を代表する)とゼルバベル(王職を代表する)は両者とも、いくらか弱くなり、失望しました。ですから、神は預言者ハガイと預言者ゼカリヤを用いて神のために語らせ、ヨシュアとゼルバベルを強め、助け、励ましたのです——エズラ 5:1-2．参照、I コリント 14:3。
- II. ハガイの預言の中心思想は、神の家の建造、すなわち、神の宮の建造が、今日の神の民の幸いと関係があり、また復興の時代における千年王国の到来とそのメシアの来臨と関係があるということです——ハガイ 1:2-5，7-8，9 後半，14．2:6-9，20-23．マタイ 19:28．使徒 3:20-21：
 - A. 旧約でエホバの家、あるいは宮は、まず個人的に神の家としてのキリストの予表であり、次に団体的に神の家としての召会(からだ、拡大されたキリスト)の予表でした——ヨハネ 2:19-21．I テモテ 3:15。
 - B. エホバの家は召会の予表ですから、ハガイの預言はわたしたち、新約の信者たちを指しています。それは、わたしたちがその予表の実際であるからです。
 - C. ハガイが、総督ゼルバベルと、大祭司ヨシュアに語ったのは、彼らと民を強め励まして、神の家としての宮を再建させるためでした——エズラ 5:1．ハガイ 1:1。
 - D. 私利私欲で神を無視する捕囚から帰還した民は、自分の家を顧みていましたが、エホバの家を顧みませんでした(ハガイ 1:4)。9 節の「奔走している」という言葉は、民が自分自身の家を顧みることに忙しくしていたことを示します。
 - E. ハガイ書第 1 章 6 節は、もしわたしたちが召会を軽視するなら、真の享受や満足はないことを示しています。神の家の建造を回復することに関して、わたしたちは中立的であることはできません。わたしたちは絶対的でなければならず、最初に自分の家を顧みるか、それとも最初に主の家を顧みるかのどちらかです——マタイ 6:33．ルカ 9:57-62．ピリピ 2:20-21。
 - F. 神の家の建造を回復するために、神の選民は霊の中で奮い立たせられ、来て、エホバの家の中で働きました。わたしたちはみな主の命令に応答し、主イエスに占有されて、福音を宣べ伝える働き、新しい信者を養う働き、

人を顧みる働きを行ない、主の家、すなわちキリストのからだとしての召会を建造すべきです——ハガイ 1:14. 2:7 前半. ヨハネ 21:15-17。

G. 「わたしはすべての諸国民を揺り動かす. そして、すべての諸国民の願いが来て」——ハガイ 2:7 前半：

1. これはキリストを指しており、彼はすべての諸国民の願いです。たとえ諸国民はキリストを知らなくても、なおもキリストを願っています。諸国民が、光、愛、喜び、義のようなもの(その実際はキリストです)を願っているのは、彼らが無意識のうちにキリストを願っていることを意味します——マラキ 3:1 後半。
2. すべての諸国民の願いとしてのキリストの来臨は、神の民のバビロンでの捕囚からの帰還と、神の家の建造の回復にかかっています——I テモテ 3:15. I ペテロ 2:5。

H. 「わたしはこの家を栄光で満たす……この家の後の栄光は、前の栄光よりも大きい」——ハガイ 2:7 後半, 9 前半：

1. 神の栄光、すなわち神の表現は、神の建造の中にあります。すなわち、エホバの家の中にあります——出 40:34-35. 列王上 8:10-11. 歴代下 3:1. 5:1-2, 13-14. エペソ 3:21. 啓 21:10-11。
2. エゼキエルは神のビジョンの中で、エホバの栄光がエホバの家に戻り、その家を満たすのを見ました(エゼキエル 43:1-5)。エホバの栄光が家に戻ったのは、家の建造が完成したからです(2, 5 節)。このことが示しているのは、栄光の神が召会の中に住むために、召会は建造されて、神の住まいとならなければならないということです(エペソ 2:21-22. 3:14-21)。
3. エゼキエルは命の水の川が神の家から流れ出て、東、すなわち神の栄光の方向に向かっているのを見ました(エゼキエル 47:1. 43:2)。もしわたしたちが神の栄光を顧慮しないなら、わたしたちの中の流れは制限されます。
4. 召会生活の中でわたしたちが持つべき最初の考慮は、主の栄光です。召会生活での決定は、おもに主の栄光にしたがってなされなければなりません——エペソ 3:21. 4:20. I ペテロ 4:10-11. ユダ 24-25 節。
5. 神の栄光を現すことが、わたしたちの奉仕の目的です。わたしたちが神にささげることができる最高の奉仕は、神・人の生活をするることによって、神の栄光を現すことです(イザヤ 43:7. ヨハネ 7:16-18. 17:1-4. ローマ 9:21, 23. ピリピ 1:19-21 前半. I コリント 6:19-20. 10:31)。

この事は、わたしたちが団体的な、建造された方法で神を表現して、神聖な栄光の中にある一の中へと入るためです(ヨハネ 17:22-24)。

- I. エホバがゼルバベルを印のようにすることは(ハガイ 2:23)、エホバが彼をご自身の代理とし、彼を愛し、彼に信頼したことを示します。この事柄で、ゼルバベルはキリストの予表であり、そしてキリストは神が愛し信頼する方です(マタイ 3:17. 17:5. ヨハネ 3:35. 17:2)。そのような方として、キリストは資格づけられて神の家、すなわち召会の建造を顧みます(マタイ 16:18)。
- III. ゼカリヤ書が啓示していることは、燭台しよくだいの七つのもし火(ゼカリヤ 4:2. 啓 4:5)が、神の七つの霊、すなわち七倍に強化された霊(啓 1:4)であるということです。彼は、エホバの七つの目(ゼカリヤ 4:10)であり、贖う小羊の七つの目(啓 5:6)であり、建造する石の七つの目(ゼカリヤ 3:9)であって、三一の神を完全に表現し、神の家を再建します：
 - A. ゼカリヤ書第3章9節でヨシュアの前に置かれた石は、神の建造のための石であるキリストを予表します(詩 118:22. マタイ 21:42)。エホバが石を彫ることが示しているのは、キリストが十字架上で死につつあったとき、神によって彫られ、切られたということです。エホバが地の罪科を一日のうちに取り除くことが示していることは、キリスト(神はその方の上で働かれました)が、イスラエルの地の罪を一日のうち、すなわち、彼が十字架につけられた日に、取り除くということです。神の小羊であるキリストは、十字架上でのご自身の死を通して、世の人の罪を取り除きました(Iペテロ 2:24. ヨハネ 1:29)：
 1. 石とエホバと小羊は、一です。キリストは贖う小羊と建造する石であり、またエホバでもあります。キリストは、小羊・石です。すなわち、贖いのための小羊と、建造のための石です——啓 5:6. ゼカリヤ 3:9。
 2. 神の建造においてキリストは、土台の石であって建造を支え、隅の石であって彼のからだの異邦人の肢体とユダヤ人の肢体とを共に結び付け、恵みの頂石であって神の建造におけるすべてを完成します——イザヤ 28:16. Iコリント 3:11. エペソ 2:20. Iペテロ 2:6. ゼカリヤ 4:7。
 3. 神の小羊であるキリストが、七つの目を持つ建造の石であるという事実は、キリストの七つの目が神の建造のためであることを明らかにしています——ヨハネ 1:29. ゼカリヤ 3:9. 啓 5:6。
 4. キリストが建造の石であり、七つの目、すなわち七つの霊を持っているのは、ご自身をわたしたちの中へと注入して、神の建造のためにわたし

たちを尊い材料へと造り変えるためです。主がわたしたちを見るとき、彼の七つの目は彼ご自身をわたしたちの中へと注入します——ゼカリヤ 3:9。 I コリント 3:12 前半。 啓 3:1。 5:6。

- B. 神の建造の完成のために、七倍に強化された霊は、贖う小羊また建造する石としてのキリストの目であって、わたしたちを観察し探り、また神の建造のためにキリストの本質、豊富、負担をわたしたちに注入し伝達します——ゼカリヤ 3:9。 4:7。 啓 1:14。 5:6:
1. 小羊の七つの目は、法理的な贖い主としてのキリストをわたしたちに注入します。石の七つの目は、有機的な救い主としてのキリストをわたしたちに注入します。それは地上における神のエコノミー上の行動のためであり、その行動は神の法理的な贖いを通して、また神の有機的な救いによって、神の建造の目標に到達します——ヨハネ 1:29。 使徒 4:11-12。 ローマ 5:10。
 2. わたしたちの内側には、二つのともし火があります。すなわち、わたしたちの霊の中にある神の七倍に強化された霊です(箴 20:27。 啓 4:5。 I コリント 6:17)。わたしたちは造り変えられるために、祈りの中で主に完全に開いて、七つの火のともし火を持つ主のともし火に、わたしたちの魂のすべての部屋を探っただき、わたしたちの内側の各部分の上で輝きそれらを照らしていただき、それらに命を供給していただかなければなりません。
 3. 造り変えを最も多く経験する人は、完全に主に開いている人です。キリストを追い求める信者たちの内側の七倍に強化された霊の働きによって、彼らは強化されて勝利者となり、キリストのからだを建造し、このからだは新エルサレムを究極的に完成します。
- C. キリストは最後のアダムとして、復活の中で命を与える霊と成りました(I コリント 15:45 後半。 ヨハネ 6:63 前半。 II コリント 3:6 後半)。彼はまた七倍に強化された霊でもあります。この霊は命の霊です(ローマ 8:2)。ですから、七つの霊の機能は、神聖な命を神の民の中へと分け与えて、神の永遠の住まい、すなわち新エルサレムを建造することです。
- D. 七倍に強化された霊は、七つの火のともし火であり、わたしたちを焼き、照らし、暴露し、探り、裁き、きよめ、精錬して、金の燭台を生み出し、神の新約エコノミーを成就します——啓 4:5。 1:2, 4, 9-12, 20。
- E. 燭台の両側にある二本のオリーブの木は、当時の大祭司ヨシュアと総督ゼルバベルを表徴します。彼らは二人の油の子であり、神の宮の再建のために、

エホバの霊で満たされてきました——ゼカリヤ 4:1-6, 11-14 :

1. 二人の油の子はまた、現在の時代の最後の三年半の二人の証し人モーセとエリヤを予表しています。彼らは大患難の中で神の証し人となり、神の民、すなわちイスラエル人とキリストにある信者たちを強めます——啓 11:3-12, 12:17。
2. 原則において、キリストにあるすべての信者は、新鮮な油の子であるべきです。彼らは、喜びの油としての新鮮で、現在の、究極的に完成された霊で満たされて、その霊を燭台の中へと注ぎ出して、燭台を輝く証し、イエスの証しとならせます——1:12, 20, 詩 45:7, 46:4, 92:10, ヨハネ 7:38 :
 - a. 召会は燭台として、三一の神の堅固な具体化であり、七倍に強化された霊を、神の神聖な性質の中にある神の油として持っています。
 - b. 油そのものが金です(ゼカリヤ 4:12)。それは、金が油として流れることを意味します。さらに多くの油が燭台の中へと加えられるとき、それはさらに多くの金加えられることを意味します。
 - c. 日ごとにわたしたちは代価を払って、さらに多くの金を、すなわち、神の神聖な性質をさらに多く得る必要があります。それは、わたしたちが純金の燭台となって、金の新エルサレムを建造するためです——Ⅱペテロ 1:4, 啓 3:18, 1:20, 21:18, マタイ 25:8-9。
 - d. わたしたちはこの事柄をわたしたちの今日の経験に適用するとき、わたしたちから流れ出るその霊が神であり、また神が金であることを見ます。こういうわけで、わたしたちはキリストを他の人に供給し、彼らに油を供給するとき、実は彼らに神を供給しているのです。神はわたしたちから流れ出て、彼らの中へと流れ込みます——ゼカリヤ 4:12-14, ヨハネ 7:37-39, Ⅱコリント 3:3, 6, 8。
 - e. わたしたちはみなオリーブの木となって、わたしたち自身から神を空にして、他の人の中へと流し込むべきです。このようにして、神が流れ出るオリーブの木である人たちによって、油は必要な人たちに供給されます——ローマ 11:17, ルカ 10:34, 参照、ヨハネ 7:37-39。